

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和4年度第4・四半期
(令和5年1~3月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和5年1～3月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和5年3月）	23
4. 特別調査「中小企業におけるデジタル化への対応について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和5年1～3月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	-	63
卸 売 業	-	20
小 売 業	-	32
サ ー ビ ス 業	-	44
建 設 業	-	31
合 計	-	190

※新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」は把握不能となっております。

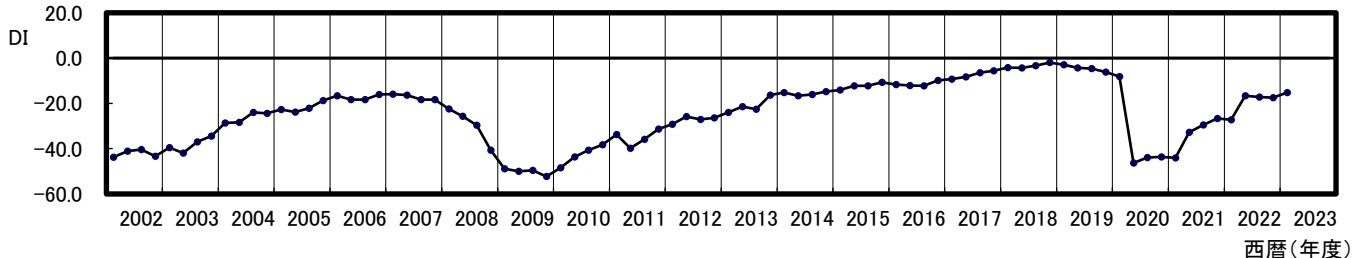
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和5年1～3月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況はわずかに持ち直す

都内中小企業景況・6業種合計 DI



今期の6業種合計の業況判断DIは、前期に続き販売価格の上昇傾向が続いていることから、△15.2（前期△17.5）と前期に比べ2.3ポイント増とわずかに持ち直した。

業種別で見ると、新型コロナウイルス新規感染者の減少を受け、サービス業の売上が大きく改善した。

来期は、さらなる経済活動の活性化が期待されるものの、今期並の業況との予想にとどまり、コロナ前の水準までには至らない見通しとなっている。

	前	期	今	期	増	減	来	期	予想	今	期	との	増減
製 造 業	-16.8	-14.2	2.6	-13.4	0.8								
卸 売 業	-17.8	-18.1	-0.3	-14.7	3.4								
小 売 業	-28.7	-26.4	2.3	-23.1	3.3								
サ ー ビ ス	-21.9	-17.4	4.5	-16.2	1.2								
建 設 業	-5.6	-4.6	1.0	-1.2	3.4								
不 動 産 業	-2.1	-2.9	-0.8	-3.7	-0.8								
総 合	-17.5	-15.2	2.3	-13.4	1.8								

※業況判断DI：「良い」企業割合－「悪い」企業割合 季節調整済

<製造業>

業況は半導体不足が徐々に改善されつつあることを受け、水面下ながらわずかに改善した。売上額・受注残・収益においても幾分上向いた。業種別に見ると、化学工業・プレス・メッキが大きく改善している。価格面では原材料価格は前期並の厳しい状況が続いているが、販売価格も上昇傾向が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「原材料高」、「売上の停滞・減少」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は今期同様に推移すると予想し、売上額・受注残・収益においても変動がないと見ている。

<卸売業>

業況は前期並の厳しさで推移した。業種別で見ると家具・建具の落込みが大きかった。売上額はわずかに持ち直し、収益は前期並の減少傾向が続いている。価格面では販売価格・仕入価格ともに前期並で推移している。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「仕入先からの値上げ要請」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況はわずかに改善すると予想している。売上額・収益においては今期同様の減少傾向が続くと見ている。

<小売業>

業況はわずかに上向いた。売上額についてもやや持ち直しが見られたが、収益は前期同様変動なく推移した。業種別で見ると、木材・建築材料、カメラ・時計・眼鏡が大きく改善した。価格面では仕入価格の上昇に伴い販売価格も一段と上昇を強め、一部で価格転嫁が進んでいる様子が窺える。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「仕入先からの値上げ要請」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は引き続き改善すると予想している。売上額・収益においても上向くと見ている。

<サービス業>

業況はわずかに改善した。売上は大幅に上向き、収益も減少幅を縮小させた。業種別に見ると、娯楽の悪化幅が大きく拡大した。価格面では材料価格の上昇が続くものの、料金価格も上昇しており、徐々に価格転嫁が進みつつある様子が窺える。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「材料価格の上昇」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期同様に推移すると予想している。売上額・収益についても今期並に推移すると見ている。

<建設業>

原材料費や人件費高騰の影響から、プラスへの転化を目前に業況は足踏み状態が続いている。売上額・受注残・施工高・収益についても前期同様の水準で推移した。価格面では材料価格は前期並の高騰が続いているものの、請負価格に変化は見られなかった。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「材料価格の上昇」、「人手不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」に次いで「人材を確保する」と「販路を広げる」が同率となっている。

来期の業況は幾分改善が見られると予想している。売上額・受注残はわずかに増加に転じ、施工高・収益は変動なく推移すると見ている。

<不動産業>

業況は前期同様の厳しさで推移した。売上額・収益も前期並で推移している。業種別では建売・土地売買の好感が続いている。価格面では販売価格はやや上昇が弱まり、仕入価格はわずかに落ち着きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は「商品物件の高騰」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期同様変化なく推移すると予想している。売上額はわずかに減少に転じ、収益は減少を強めると見ている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.Iは季調済 D.Iを使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。